

本日の訓練は、地震と火災を想定した防災・避難訓練です。今回は防災・避難に関する講話をします。

みなさんは「てんでんこ」という言葉を聞いたことがありますか。

明治29年の三陸地震で津波が発生したころから、岩手県釜石市に伝わってきた「命てんでんこ」という言葉があります。「てんでん」とは、「てんでに」とか「てんでんばらばらに」という意味で、「てんでんばらばらに、急いで早く逃げよ」という、津波から逃れるための教えです。

もっと詳しく言うと「命てんでんこ」は「自分の命は自分で守る」という事ですが、それだけではなく、「自分たちの地域は自分たちで守る」ということも含まれているそうです。緊急時に小さな子どもやお年寄り、病気の人などを手助けするために、その方法は各地域であらかじめ、話し合っていて決めているそうです。

つまり、この教えには「他人を置き去りにしてでも逃げよう」ということではなく、あらかじめ互いの行動をきちんと話し合っておくことで、とっさの判断に迷ったりせず、逃げ遅れるのを防ぐのが第一だそうです。

この言葉が有名になったのは平成23年3月11日に発生した東日本大震災をきっかけとし、「てんでんこ」という言葉はマスメディアに出て広まりました。

当時、生徒のみなさんは幼少期の2歳から4歳ぐらいだったので、覚えている人はいますでしょうか。

岩手県の釜石市では、東日本大震災の津波により約1,300人もの人々が亡くなったり、行方がわからなくなったりしました。湾・海に面した地区では、津波で壊滅状態になりましたが、この地区の小学校と中学校にいた児童・生徒約570人は、全員無事に避難することができ、「釜石の奇跡」と呼ばれています。

「釜石の奇跡」と呼ばれることにより、当時もその後も「てんでんこ」は防災教育の標語として全国的に注目を集めました。

子どもたちが全員避難できたのは、単に運が良かったからというのではなく、この地域で日ごろから行われていた防災教育を学んだ子どもたちが、自分たちが普段から行っている行動を、当たり前実践した結果が起こしたものです。

さて、本日の防災・避難訓練を振り返ってみていかがでしょうか。

「どのような状況」で災害に遭遇するか分かりませんので、状況が変わっても、冷静に落ち着いて、素早く行動をする、非難するということが大切です。

以上で講話を終わります。